

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: http://www.konbukuroike.com

2026 年 9 月

第 149 号

主な予定

10 月 16 日 (金)

10:15~11:40

千葉シニア自然大学

11 月 6 日 (金)

9:00~12:00

アドバイザー会議

於：柏区画整理事務所

3 月 29 日 (日) こんぶくろ池保全活動報告会より ナラ枯れの被害木調査と落葉紅葉樹の育成

I. ナラ枯れ被害木調査

はじめに

2020 年 8 月に園内で初めてナラ枯れの被害が認められ、2020 年度中に 55 本、2021 年には 43 本、2022 年度には 113 本、2023 年度には 79 本、2024 年度には 26 本の被害木を確認した。以上は各年度の新規被害木本数である。

2023 年度以降には園路への落枝・倒木が懸念される過年度被害木が生じ、2023 年に 3 本、2024 年度に 11 本を報告した。2024 年度にはさらに、園路近くで過年度被害木の倒木 2 本を確認し、園路近くでのオオスズメバチ等の営巣が懸念されるのでこれも報告した。

報告した被害木は柏市によって伐採、または幹へのネット被覆によりカシノナガキクイムシの脱出を防止する対応策がとられた。本調査では、今年度に新たにカシノナガキクイムシの被害にあったと考えられる木、および園路への落枝・倒木が懸念される過年度ナラ枯れ被害木を確認し記録した。

調査方法：

樹幹下部を中心に穿入孔がある木を被害木とし、以下の項目について調査した。

・樹種 ・幹周囲長（胸高直径） ・粉フラスの有無およびフラス量の多少 ・2m より上に穿入口があるか ・樹液の分泌の有無 ・園路に近い木の抽出 ・葉枯れの状況（葉枯れの割合を記載） ・生死 ・被害木の写真記録（別途保存）

図 1 2025 年度調査範囲

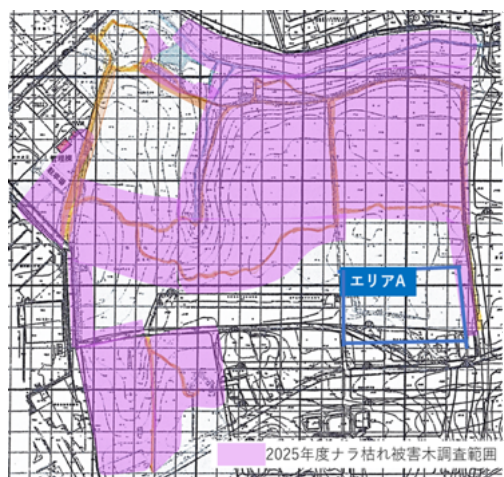
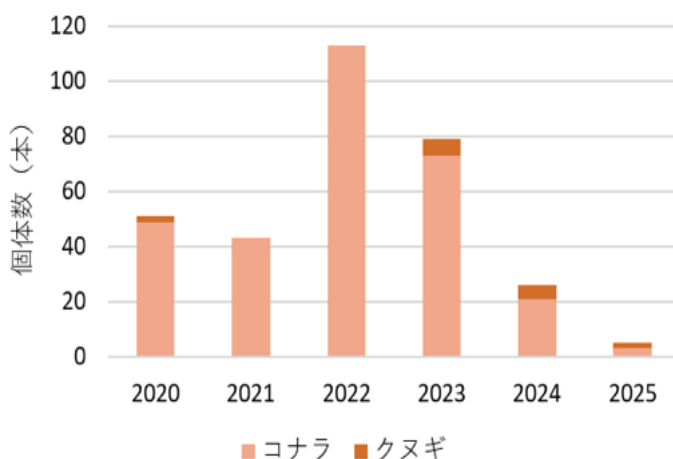


図 2 ナラ枯れ被害木本数の変化



実施日および参加者：

定例活動日 2025/8/17：5名 8/24：5名 9/6：6名

有志による調査 2025/8/31 午前：2名

調査範囲：

図1の範囲。図1内エリアAでは園路付近を中心に藪に踏み込める範囲を調査した。

結果：

・2025年度の新規被害木5本を確認した。被害木本数の変化を図2に示す。

・過年度被害木のうち園路への落枝・倒木懸念木3本（R4-96 R6-9 R6-26）を確認した

対応：

柏市；ネット被覆；3本 伐採5本（2025年度被害木2本 過年度被害木3本）

NPO；スズメバチ営巣対策のために、園路に近い倒木の根元の穴埋めを実施予定。

課題：

今後のネットはがし、倒木の処置

今後の留意点：

当園では、遷移の進行とともに、シラカシの増加と成長が進んでいる。今後は、ナラ枯れ被害がシラカシへ移らないための対応も必要だと考えられる。

「農林水産技術会議技術指導資料 千葉県におけるナラ枯れ被害の現状と被害対策としての森林管理」（令和6年3月 千葉県・千葉県農林水産技術会議 発行）から一部抜粋

抜粋：千葉県のナラ枯れは県南部では主にマテバシイ、県北部では主にコナラ、シラカシに見られ、特に県南部のマテバシイの被害が顕著である。

2020年度秋季に地金堀南と管理棟付近、中央8（北東部で園路に囲まれたエリア）で落葉広葉樹（コナラ、クヌギ）と常緑樹（シラカシ）の生存木本数調査を行い、地金堀南側で44本のシラカシ小径木を、中央8の林内でシラカシ約30本を確認した。その後、地金堀南で適宜シラカシを伐採した。現在それらは萌芽更新している。

II. 落葉広葉樹の育成

ナラ枯れ被害木伐採跡地の藪化防止と、森の若返りを目的に2020年度から次の内容で落葉広葉樹の育成を実施している。

1. 園内に自生する幼木の保護

ナラ枯れが発生する以前は林床で刈り払い機による刈り取りを繰り返した時期があった。高木層の老齢化が進み、林床にササばかりが繁茂する状況に対応するために、林床で自生する幼木を育成している。

方法 ①幼木周辺に印のササを立てて、周囲を手刈りする

② ①の幼木や、既に育っている幼木を避けてササを機械刈りする

③ 刈ったササ等は軽く掃き集め、園内廃棄所に廃棄するか、園路から10m以上離れた場所に積む、或いは藪内に移動させる。

実施エリアと頻度 図3の各エリアで3～4年に1度を想定。
状況に応じ頻度やエリアを検討。

2. 園内で採取した種子の播種

これまでに園内のコナラ、クヌギ、クリ、エゴノキを種子から育成している。

3. 園路等に生えた幼木の保護

園路や野馬土手での除草前に実生を採集し、ポットに植え育成している。これまでに、コナラ、クヌギ、イヌシデなどの実生を採集し育成している。

4. ポット苗の育成

種子・実生：【10、11月】園内種子の播種、実生の植え付け⇒
【3月頃】ポットへの植え替え

ポット苗：【梅雨明け頃～冬期】地金堀岸の木陰に並べる。水やりは行っていない

【3月頃～梅雨明けまで】管理棟前で光と降雨を十分に受ける

※ポット苗の用土：園内で落葉広葉樹が生育する区域から団粒状の土壌を採集して使用。

種子の播種用には必要に応じ火山灰性の用土（赤玉土、鹿沼土など）を使用。

ポット苗の数 2022年度約150→2023年度約300→2024年度474→2025年度409

2025年度内訳を表1に示す。

生育状況 ポット苗および、2023年に1mに満たないポット苗を地植えした苗の生育状況を表2に示す。

5. 今後 ポット苗が約1m50cmを越えてから地面に植え付ける予定である。

表1 2025年度ポット苗内訳

樹種	ポット数
クヌギ	136
イヌシデ	90
コナラ	78
クリ	31
エゴノキ	5
その他	69
合計	409

図3 主なササ刈りエリア
※アオキ抜き取り等は別途

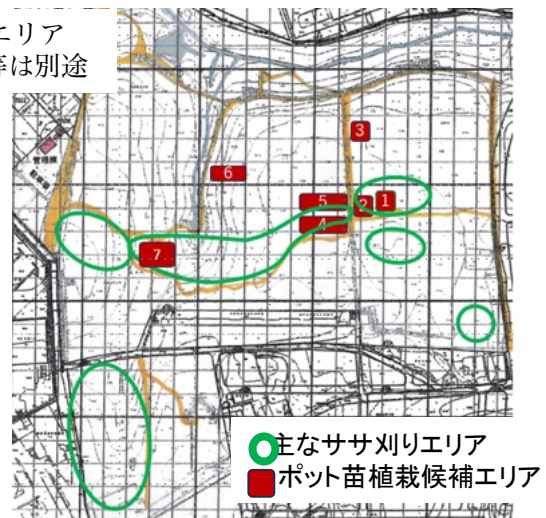


表2 苗の生育状況

	最も高い幼木の樹高	記録日
ポット苗	コナラ 82cm イヌシデ 2023 年実生 85cm	2025/11/2
ポット苗から林床へ植栽（中央 5 弁 天池脇）	コナラ 2023/5/6 植栽 160cm	2026/2/21
	コナラ 2023/5/6 植栽 191cm	2026/2/21
	コナラ 2023/5/6 植栽 178cm	2026/2/21

III. ナラ枯れ被害木の生存・枯死調査

こんぶくろ池自然博物公園では 2020 年度に初めてナラ枯れ被害を確認した。2023 年度から継続的に、南 2 区に限定してナラ枯れ被害木の生存・枯死を確認している。

調査区域：がんセンターに隣接し園路で囲まれた区域約 1200 m²（図 4 黄色枠内 南 2 区）

区域内の被害木総数：61 本

調査時期：2025 年 10 月

方法：南 2 区の被害木総数 61 本中 60 本の個体を確認し、新芽が出ていない、または全ての葉が枯れている木を枯死木とし、ナラ枯れ被害木の枯死と生存を記録した。

結果：枯死木増加数（前年度比）、被害発生後の生存率、倒木増加数（前年比）を表 3 に示す。

生存率(%)=各年度の生存木本数÷各年度の総被害木数×100

被害木の位置と生存枯死状況を図 5 に示す

図 4 黄色枠内が南 2 区



図 5 ナラ枯れ被害木の位置と生存枯死状況（南 2 区）

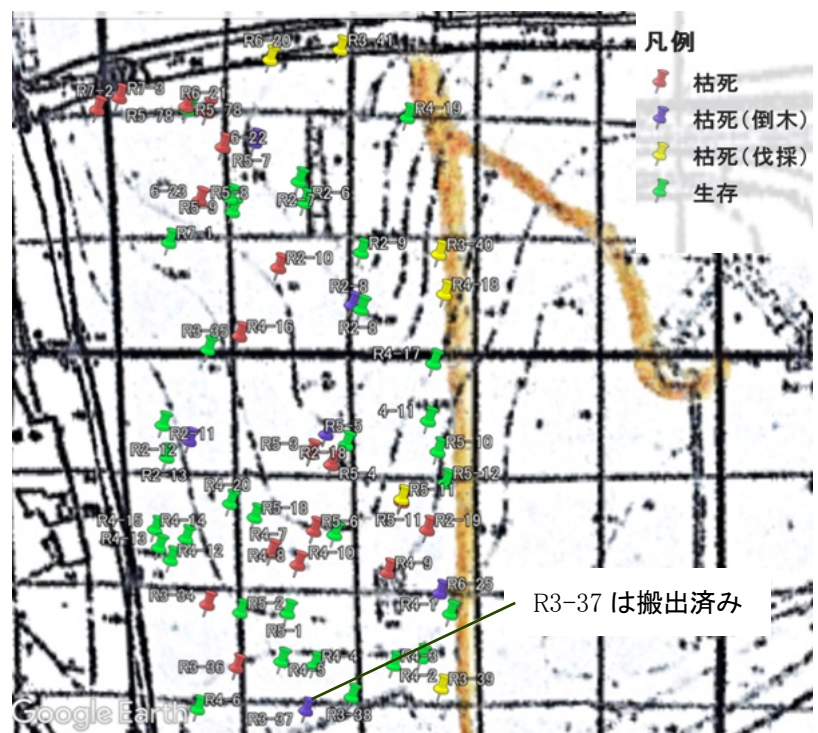


表3 枯死木,倒木増加数【前年度比】・生存率

被害発生年度	枯死木増加数 【前年度との 差】（本）		被害 木数 （本）	生存 木数※ （本）	生存 率（％）	伐採 木数 （本）	倒木増加数 【前年度との 差】（本）		倒木 木数 （本）
	2024 年度	2025 年度					2024 年度	2025 年度	
2020（令和2年）	0	0	11	5.5	50	0	2	2	4
2021（令和3年）	0	0	8	2	25	3	1	0	1
2022（令和4年）	4	0	20	15	75	1	0	0	0
2023（令和5年）	3	1	14	8.5	61	1	0	1	1
2024（令和6年）		1	5	0	0	2		0	0
2025（令和7年）			3	1	33	2			0
計	7	2	61	32		9	3	3	6

※2本立ちのうち1本が生存している場合は、0.5本生存とカウント

まとめ

1.被害木の生存

2020 年度被害木と 2021 年度被害木のうち、2023 年度の調査で生存を確認した被害木は全て生存し続けており、2022 年度被害木のうち、2024 年度の調査で生存を確認した被害木は全て生存し続けている（表 3 図 6 図 8）。

2021、22 年度被害木ではナラ枯れ被害発生後 2 年間生存した木はその後も生存し続け、2020 年度被害木では発生後 3 年生存した木はその後も生存し続けている。

2.倒木

ナラ枯れ被害木の倒木はいずれも根元から根こそぎ倒れている。ナラ枯れ被害後 5 年が経過した 2020 年度の被害木の倒木本数が多い（表 3 図 7）。

図 6 枯死木増加数【前年度との差】

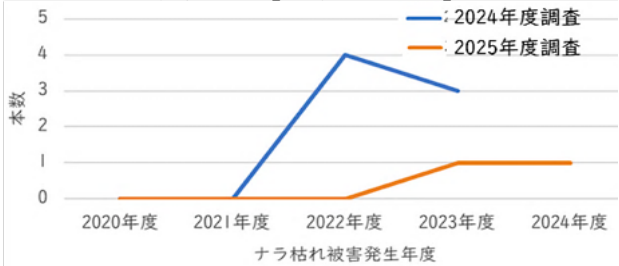


図 7 倒木増加数【前年度との差】

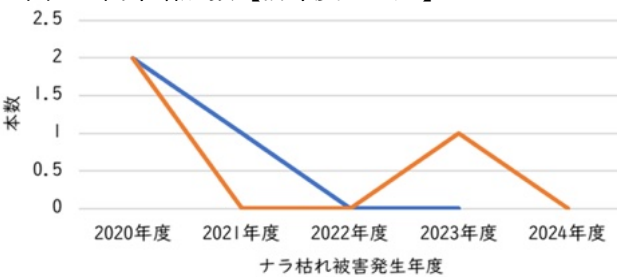
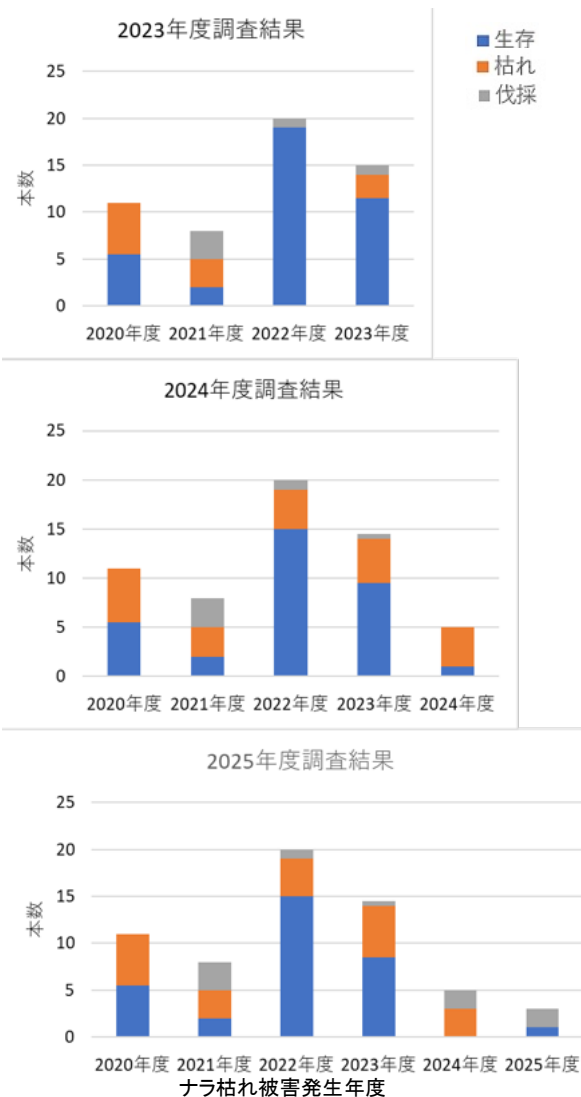


図 8 ナラ枯れ発生年度と生存、枯死の本数



3. 倒木（ナラ枯れ被害調査区全域）

南2区以外でも、園路からの目視だけで2025年度に少なくとも5本のナラ枯れ被害木が倒れた。いずれも根元から根こそぎ倒れており、被害発生から数年経過した木が多い。

2025年度にナラ枯れ調査区全域で倒れたナラ枯れ被害木は少なくとも計8本あり、その内7本は枯死木。1月に地金堀付近で確認した1本は、冬芽をつけ生存していた被害木が根元から倒れていた（図9）。

図9 冬芽を付けた倒木（南2区外 地金堀付近）
根元の穴の深さは約50cm 2020年度被害木



文責 上田 真佐江

ワタラセツリフネソウのふるさとへ

橋本谷 弘司

当園のこんぶくろ池の手前と地金堀左岸にワタラセツリフネソウの群生地があり、9月ごろ、赤紫色の花を多数咲かせます。2005年に日本植物学会で、ツリフネソウの新種としてワタラセツリフネソウが発表されました。種名の「ワタラセ」は渡良瀬遊水地のことです。

渡良瀬遊水地内の「道の駅かぞわたらせ」の近くに三県境の境界杭があります。2016年1月から関係者間で協議・測量を行い、U字溝を壊して泥を取り除いたところ昔の杭が発見され、同年2月に栃木・群馬・埼玉の3県が境界を確認し新しい杭が打たれました。平地に三県境があり、容易に人が近づけるのはここだけです。三步で三県を歩いて行けます。三県境は全国で48箇所あり、三県境の県名の組み合わせは通常同じものはありませんが、三重県と奈良県の県境を跨ぐように和歌山県の飛び地2か所（新宮市の一部、北山村）があり、三重県、奈良県、和歌山県については5か所の三県境が存在します。三県境の地形は、山頂及び山頂付近（峠を含む）が約75%、川の中が約25%です。



渡良瀬遊水地

出典：ウィキペディア（2021 年 5 月撮影の空中写真。国土地理院作成）



三県境入口
(約 400m 先が三県境)



三県境の境界杭



谷中展望台

渡良瀬遊水地の面積は約 33 km²で、山手線の内側約半分に相当します。栃木・群馬・埼玉・茨城の 4 県 4 市 2 町にまたがる低層湿原として、洪水時の調整池と渇水時の渡良瀬貯水池（谷中湖）があり、主に首都圏を守る平地ダムの役割を担っています。

渡良瀬遊水地の成り立ちは、明治 10（1877）年に足尾銅山の銅生産が始まると渡良瀬川下流域一帯は銅の鉱毒による壊滅的な被害を受け、「足尾銅山鉱毒事件」として大きな社会問題になり、明治 36（1903）年、渡良瀬川の最下流の谷中村は鉱毒沈殿池として沈められることが決まり、明治 39（1906）年に谷中村は廃村となりました。足尾銅山鉱毒事件が引き金でしたが、この地域の治水問題はどのような案も賛否が分かれ地域対立が表面化していました。詳しくは、東洋大学国際地域学部松浦茂樹教授の「足尾鉱毒事件と渡良瀬遊水地の成立」を見て頂ければと思います。

現在、遊水地のシンボルであるハート形の谷中湖は、当初の計画では丸形でしたが、昭和 47（1972）年の谷中湖造成時に、谷中村の子孫たちが共同墓地一帯を池に沈めないよう、ブルドーザーに身を挺して守ったことによるものです。

渡良瀬遊水地はラムサール条約湿地に登録（2012 年）された貴重な遊水地です。2018 年に野田市が放鳥したコウノトリのオス「ひかる」が定着し、2020 年に鳴門市生まれのメス「歌」とペアが成立して 2 羽のヒナ生まれました。将来はトキが舞う姿が期待されています。また、植物は約 1,000 種、昆虫は約 1,700 種が記録され、野鳥は 275 種が確認されています。自然が豊かな素晴らしい所ですが、歴史を遡ると大きな犠牲の上に今日があることも心に留めておきたいと思えます。

『渡良瀬遊水地歴史自然ガイドマップ』（発行者：渡良瀬遊水地コウノトリ・トキ定着推進協議会事務局）及び、『ちょっと便利帳の「三県境」データ一覧』を参考にさせていただきました。



共同墓地

ワタラセツリフネソウ
(こんぶくろ池)

令和八年夏季こんぶくろ池句会・歌会作品集

世話人 松田 和生

俳句の部

虫を呑み生死を考え墓ひとり
 大道を伸びて縮んで行く毛虫
 新妻の白いドレスに青嵐
 掻い掘りの労を労う緑雨かな
 開墾の汗の一滴葉の雫
 梅雨の合間さんざめき合うヒバリたち
 コリドー除草 終えて昼餉の缶ビール
 万緑に紅色差し込む百日紅
 紺青に上弦の月蟬しぐれ
 夕闇に誰（た）が残り香や夕化粧
 盆蟬の声のたけしや帰らばや
 ホタル見に足を偲ばすこんぶくろ

あおはもゆ
 あおはもゆ
 あおはもゆ
 木下 勇二
 木下 勇二
 中川 望
 ノー・ボール
 萩原 秀夫
 まさえ
 吉川億空
 吉川億空
 わらしべ

短歌の部

ナメクジが天敵という家内から
 悲鳴があがる梅雨のベランダ

 万歳し富士山頂に立つ吾は
 夢かうつつか熱帯夜の朝
 炎暑にもめげずに生きるムクドリたち
 そのたくましさで心で拍手
 今夏初ツクツクホウシの声を聴く
 炎暑の夏も残り半分
 バリバリとチッパー飛ばす竹チップ
 カブトムシさんベットにしてね
 雨上がり石段照らす月明かり
 八坂の塔が浮かぶ夏の夜
 硝子器のクラゲに似たり今頃は
 土用波かと潮風おぼゆ
 早朝から激しく鳴いて蟬しぐれ
 猛暑の午後には一休みかな

いもり

 P 助
 中川 望
 中川 望
 ノー・ボール
 萩原 秀夫
 まさえ
 わらしべ

あとがき

今年の夏は、歴史的な暑さに見舞われましたが、自然の森を巡る活動はそのような暑さにもめげず元気いっぱいに行われました。

そのような達者な仲間や自然の森をこよなく愛する延べ10名の方々から作者それぞれの持ち味を生かしたオリジナリティとリアリティが光る俳句十二句、短歌八首が寄せられました。

自分はそんな柄じゃないと思っている読者がおられるかもしれませんが、実は作者の皆さんは、全員が全くの素人から始めています。未投稿の読者のみなさんもここで思い切って俳句・短歌の道へ一歩踏みだしてみませんか。きっと新たな世界が開かれることでしょう。

次回は秋季（令和8年9月～令和8年11月）になりますが、思い立ったが吉日、事務所前の投稿箱の他、世話人あてのメールやメモでも結構ですので応募をお持ちしています。